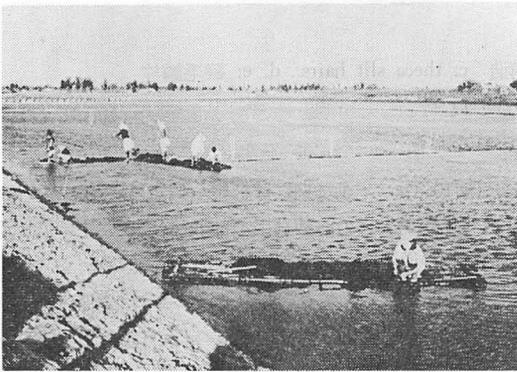


台湾およびポルトガルにおける オゴノリの多産地

瀬木紀男*

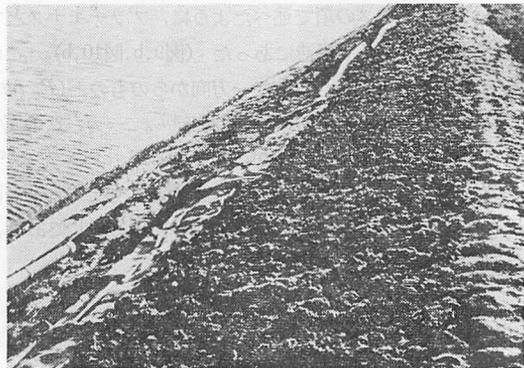
T. SEGI : Districts of abundant growing of *Gracilaria* in Formosa and Portugal

筆者が台湾及びポルトガルを先年訪問した時、天然にオゴノリ *Gracilaria verrucosa* (HUDSON) PAPENFUSS が多量に産する地域を視察し得たのでその概要をご紹介します。



第一図 オゴノリの採取
竹製の筏に乗って池中にのり出し、桿でひっかけて採取する。筏の上にはすでに採取されたオゴノリが積まれている。(台南にて筆者撮影)

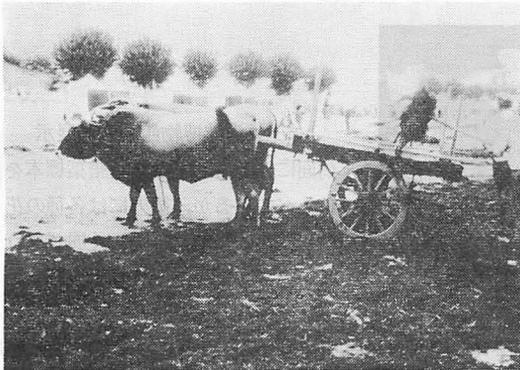
第二図 オゴノリの乾燥
石垣の堤防上に延々として一面に多量のオゴノリが乾燥させてある。(台南にて筆者撮影)



* 三重県立大学水産学部 (津市江戸橋二丁目)

(1) 台湾の多産地

台南の水産試験場を袁柏偉氏（中国農村復興聯合委員会漁業組，台北J C R R水産課勤務）と訪問した際，連俊国氏（台南試験場長），黄清雲氏（同試験場技師）の案内でその附近一帯（安南区上城子鹿耳門溪，下鯤鯓，四草湖附近）を視察したが，この辺見渡す限り広漠たるサバヒー（虱目魚，*Chanos chanos*, milk fish, 日本にはない）の養殖池（鹹水）が果てしなくつづく。その広さ1万8千haに及ぶという。その一部の池にオゴノリが多量に養殖されている。この養殖は極めて簡単で，オゴノリを切断して池に一面にばらまいておけばやがてこれが伸長して大きなオゴノリに成長するのでそれを採集するのみであるという。採取されたオゴノリはすべて日本に輸出され寒天原料にされる由である。



第三図 オゴノリの採取
湾内の海岸一面に多量に打揚げられたオゴノリを二頭立の二輪牛車に鋤でのせて運搬する。（ポルトガルにて筆者撮影）

第四図 海岸に積まれた
オゴノリ

牛車で集められたオゴノリは海岸の一角に山と積まれている。（ポルトガルにて筆者撮影）



(2) ポルトガルの多産地

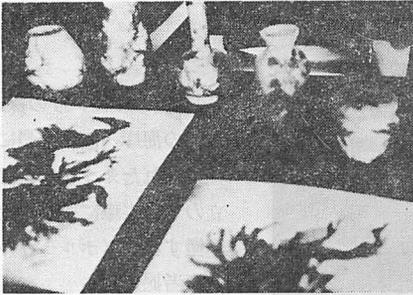
欧州で最も古い大学として有名なコインブラ大学（1585年創立）から Prof. A. FERNANDES と採集技師 ANIBAL DOS SANTOS 氏，運転手 MANUEL CARDOS ALVES 氏と共にリスボンに向かって大学の車で出発した。途中，近時写真家が訪れるので有名になった

ナザレの保養地、漁村を通過してしばらくすると São Martinho do Porto という漁村に着く。ここは湾内の奥にある漁村であるが、この辺一帯の海岸には驚いたことに見渡すかぎり一面にオゴノリが多量に打揚げられて堆積している。之を二頭立の二輪牛車に大きな鋤でつまみあげて採取する。これも全部日本に輸出されるとのことである。

モナコ海洋博物館の海藻展示

瀬 木 紀 男*

T. SEGI : Algal exhibit at Monaco Oceanographic Museum



モナコ海洋博物館の海藻展示
前面には紙に附着させた腊葉標本を
ならべてあるが、後方には各種の花
瓶に海藻類を貼付し美しく展示され
ている。(モナコにて筆者撮影)

筆者が有名なモナコ海洋博物館を先年訪問した時、海藻関係について、本邦では未だ見られない興味ある展示があったので御紹介する。即ち紙上につくられた普通の腊葉標本の展示の他に、ここでは、写真に示す如く種々の形をした陶磁器製の白色の花瓶に、アオノリ *Enteromorpha*、アサクサノリ *Porphyra*、イトグサ *Polysiphonia* を表面に夫々附着させて美しく見せている。ヨーロッパ式のいかにも芸術的な着想として興味深かった。

カーン女史の来学

瀬 木 紀 男*

T. SEGI : Mrs. KHAN LEWMANOMONT's visit to Prefectural University of Mie

タイ国バンコクの国立カセサ大学水産学部講師カーン女史 (Mrs. KHAN LEWMANOMONT) が昨年10月中旬ユネスコから招聘されて藻類研究のため新装なった本学を訪れた。

* 三重県立大学水産学部 (津市江戸橋二丁目)